

ホタル復活、コイに泣く

福生市の玉川上水でホタルとコイの共存をめぐる議論が起きている。雑食性のコイが大きく育ち、ホタルの幼虫や川底に生息する幼虫のエサを食べてしまうため繁殖できない、という天敵説が発端だ。3日の市議会での問題が取り上げられ、コイを別の場所へ保護する案も討論された。しかし、「都民の水がめで国指定の史跡」という場所だけに制約もあり、簡単に解決しづらい。（上林格）



玉川上水 1653年、江戸

キワ 市中の水不足を解消するために、多摩川から

の水を求めて造られたとされる露天掘りの上水路。羽村堰（せき）⇨羽村市⇨から四谷大木戸⇨新宿区⇨まで43km、高低差92m。1901（明治34）年、直接給水は取りやめになり、水道原水としての供給になる。65年、小平監視所から下流は通水が止められたが、86年に都の「清流復活事業」によって同監視所より下流は下水処理水を流すようになった。

福生の玉川上水 「幼虫食べる」の指摘 対策には許認可の壁

玉川上水には昭和40年初頭までホタルが繁殖していた。「ホタル復活」を目指す市民団体はここ数年、市はたる公園の近くの玉川上水に、ホタルの成虫や幼虫のエサのカワニナを放しているが、繁殖には成功していない。

元凶とされるのが放流されて大きく育ったコイだ。堰があるJR拝島駅近くの平和橋付近から上流の青梅橋までの約1.5km区間を回遊していると思われる。

東京大学大学院・保全生態学研究室の須田真一特任研究員によると、ホタルの幼虫は捕食を防ぐ物質を体表に分泌しているが、コイだけは何度でも口から水とともに出し入れた後にのみ込んでしまうという。カワニナも好物だ。

「生態系に深刻な影響を与える点でブラックバスやブルーギルに引けをとらない」と話す。

3日の市議会では、杉山行男議員が約30匹の群れをなすコイの写真を議場で掲げながら「コイの保護」と「エサやりの禁止」を訴えた。加藤育男市長は「コイとホタル、どちらかを優先することがどこまでできるのか、市民と相談させてもらいたい」と答えた。

玉川上水は国指定の史跡であるため、コイを保護するにけすなどの設置には文化庁の許可が必要。本来飲料水でもあり、えさやりや釣りは水質の観点から「好ましくない」というのが管轄する都水道局の見解だ。

橋付近にえさやり禁止の看板設置は検討できるという。ただ、元気なコイを人為的に別の場所に「保護」することは事例がないため担当者も戸惑っている。



コイの群れ＝福生市の玉川上水